

# 雑駁とした「送迎問題」に関する考察

～送迎は本当につらいのか～



交通まちづくりの広場 ～人と環境にやさしい交通をめざす協議会～

浪瀬 佳子

第12回 人と環境にやさしい交通をめざす全国大会 IN 広島

交通まちづくりで 誰もが集う広島へ

2026年3月15日(日)

# 私の住んでいる辺りのこと

富山県富山市稲荷元町三丁目

東京からの北陸新幹線 富山駅手前最後の右カーブ内に位置  
町内の南側を神通川水系の支流「赤江川」が流れる

世帯数: 約100戸

世帯主の年代: 30代～90代

宅地造成開発開始: 1964年(1回目の東京オリンピック)

現在も若い世代の転入が継続しており  
絶えず乳幼児がいる町内  
中心に近いエリアとしては稀有な状態にある

1960年代から居住している住民は  
90代を迎える高齢となり、100～200Mの移動も困難





# 富山地鉄存廃問題

- 6期連続の赤字と累積赤字61億円を受け、本線(滑川以東)と立山線の**一部廃止を2026年秋に検討**していた。
- 県と沿線自治体が2026年度の赤字額の約3分の2を負担し、運行を支援する方針で合意したため、廃線は**一旦回避**された。
- 今後は2027年度以降の持続可能な形に向けた協議が続けられる。

## 【現状と経緯】

危機的経営状況: 2020年の脱線事故、2023年の死亡事故に伴う安全対策費増、コロナ後の利用客減少で経営を圧迫。

廃線危機: **滑川—宇奈月温泉、岩峠寺—立山**の不採算区間について、地鉄が行政の支援がなければ2026年11月末で廃止する意向を表明。

支援決定: 2025年12月、富山県と沿線自治体が赤字の一部公費負担で合意し、2026年度の廃線は見送り。

県主体へ移行: 2026年度からは、県が主体となる新たな組織を立ち上げ、**包括的な維持策を議論**。

## 【課題】

**巨額の維持費**: 並行区間を維持した場合、今後10年で約100億円の負担が見込まれる。

**利用促進**: 公費投入に対する住民の理解と、観光・日常利用の増加が必要。

今後は自治体間の役割分担や、長期的な上下分離方式の導入などが焦点となる。(以上 AIによる概要)

# 公共交通と暮らし

とある高校生のつぶやき 

「電車がなくなると学校に通えなくなる」

鉄道の有無で、子どもたちの進学先が変更せざるを得ないこと

今まで富山ではあからさまに人の口に登ることはあまり無かった

今回改めて、交通と進路の関係が人々の意識に上がった

メディアも数多く取り上げ！ 行政も真剣に！

# 暮らしと送迎

車社会と言われる富山 ✨

## ✨ 子どもの送迎にお母さんが大活躍



- 小学校の統廃合が進みつつある富山では、統合された小学校の下校時にお迎えの車がずらり
- 小学校の子どもの送り迎えも当たり前の生活の一部？
- 朝夕の高校生の駅への送迎もよく目にする光景

# 人生と送迎

2025年 黒部市で行われた土井勉先生の講演会では

- 送迎が女性の人生の時間を大きく使っている
- そのために30代40代はパートやフルタイムで仕事しづらい
- そんな親を見ていることが若い女性の地方離れに影響が出ている

100人の村で地域公共交通を考える [HTTPS://KOTSUTORISETSU.COM/PRIMALY/100VILLAGE/](https://kotsutorisetsu.com/primary/100village/)

# こんな送迎 あんな送迎

## 日常的に派生する送迎

- 子どもの学校・幼稚園などへの送り迎え
- 子どもの習い事への送り迎え
- 配偶者の最寄り駅までの送り迎え
- 家族の送り迎え（病院・買い物など）
- デート(?)の時の母親の送り迎え

最寄り駅まで歩ける距離のうちの辺りでも  
当たり前の光景

# その課題は？

- 送られる側の都合に 送る側が合わせることが多い
- 送る側の時間を細切れに提供する必要がある
- 送り側の細切れな時間の提供は、送る側の人生を不安定なものにする
- 今の日本社会の労働形態のありようでは、安定した職業に就くのが難しい
- 様々な社会的な活動への参加の機会も失う
- 社会でのキャリアの積み重ねに影響が出る
- 送る側の人生に不利に働く可能性が高い

# 送迎は本当に負担になっているのか

我が家のお向かいの奥さんの日常

- お子さんの送り迎え
- お子さんの習い事
- 時に、実家のお母さまの送り迎え
- 時に、ご主人の仕事の関係での送り迎え
- 犬の散歩に、犬の病院への送り迎え ETC. ETC.



では、彼女の人生は負の影響を受けているか？



# 「否」です。

- 彼女は、今の生活を十分謳歌し、地域活動や自分の趣味、お友達とのお出かけもあれば、時にお向かいの奥さんである私との楽しい立ち話の時間もしっかり持っています。
- もちろん、その家庭その家庭、家族構成、立地条件、もしくは土地柄、家にある車の台数、そして本人の性格などで一概に言うことができないとは思いますが、送迎が本当に負担になっているかは、人と立場によって違いがあるようで、全ての送迎する側の人間が負担を感じ不幸に思っている、ということでもなさそうです。
- とは言うものの、公共交通の恩恵を受けにくい立場にある人が、送迎による負の影響を受けていることも事実です。楽しい送迎、やな送迎、それによって負担感も重くなったり軽くなったりしていそうです。時に人生までも変化させることもあるでしょう。

# しあわせな送迎

- つい最近お母様が亡くなられた近所のお嬢様。一人残されたお父様のお世話のために毎日のように実家へ通い、お父様の送迎係を担っておられます。
- 久しぶりのお父様との時間はなんだか**楽しそう**



送迎は

**喜びも生み出す**のだなあと思えるに至った次第です



# 送迎は交通の課題だけにあらずや！？

さて、このような稚拙な私の考察が

「社会の不具合に気づいた人が躊躇いつつも、今後社会に向けて発表する機会」  
に繋がるでしょうか

繋がることを願いつつ……

✨ ✨ ✨ ご清聴ありがとうございました ✨ ✨ ✨